

(認特) 野生生物保全論研究会

生物多様性保全を促進する消費・ライフスタイル形成、普及に関する調査・研究・啓発活動～普及啓発の論拠の点検から持続可能な消費・生産(SDGs目標12)、地域活性化との連携・展開を目指して～

ひろげる助成

3年目

知識の提供・普及啓発

普及ツールの作成	3点
セミナーの開催	4回
今年度計画の達成度	100%
目標達成度	80%



岐阜で開催したシンポジウム

苦勞した点と工夫した点

■ 苦勞した点

大学等学校でのポスターの掲示は、学校への届出の必要のない研究室などをお願いしたが、掲示場所の確保に苦勞した。

■ 工夫した点

各地で開催したセミナーは現地の団体の協力を得て、地域ごとの関心事を盛り込んだ企画にした。小冊子の企画に大学生の意見を取り入れた。

課題

生物多様性保全につながる効果的な消費のあり方が、消費者や生産者に普及していないこと。

目標

普段の日常的な生活との関わりの中で消費者・生産者がそれぞれの立場で生物多様性保全のための行動について普及対象者の8割以上が理解して6割以上が実践している。

活動内容と成果

普及ツールの作成として、「エシカルコンシューマーになろう」をテーマに東京デザイン専門学校の学生のコンペによりポスターデザインを決定し、そのポスターを大学ほかに配布した。SDGsと生物多様性を解説したポスターを作成し、IUCN70周年イベント・エコプロ2018で掲示した。

小冊子「生きもの目線で活動チェック」を作成、配布した。これらの普及ツールをウェブサイトで公開し、ダウンロードをして活用できるようにした。

札幌、高松、東京、岐阜でセミナー等開催。合計約149人が参加した。



普及啓発ポスター

全助成期間の活動を振り返って

報告書作成を通じてさまざまな事例を掘り起こすことができた。その事例を根拠として普及ツールを作成したため、初めて組む団体に説明ができ、協働が容易であった。小冊子の作成では大学生ボランティア団体の協力を得、ポスターを専門学校生のコンペで選び、各地でのセミナーでは地元団体の協力を得た。また企業活動を評価する市民活動と連携し、企業に働きかけることができた。ただ消費者への普及は広がりが不十分であった。

| 活動地域 |  日本全域

〒180-0022

東京都武蔵野市境1-11-19 モウトAPT102

電話：0422-54-4885

E-mail：info@jwcs.org

https://www.jwcs.org/



今後の
展望

当事業を通してSDGsの「持続可能な消費生産」だけでなく、他の目標の達成と生物多様性保全の関係を普及できるようになった。国際的には保全活動のスタイルがこのような総合的なプログラムに変わってきているので、活動への理解を求める普及啓発を行っている。とくに小冊子「生きもの目線で活動チェック」は好評なので、身近な事例から生物多様性保全活動を普及していきたい。